

Title	箕作博士著 フランス大革命史 前編
Sub Title	
Author	占部, 百太郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1919
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.12 (1919. 12) ,p.1664(128)- 1665(129)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19191201-0128

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

箕作博士著 フランス大革命史 前篇

富山房發行
定價金五圓

我國に於て西洋史の講究せらるゝこと久しと雖、其の講究の結果の世間に發表せらるゝ所は概ね教科書用若くは教員參考書に充つる一般西洋史に過ぎずして、特別の國民、特殊の時代を取扱ひたる著述に至りては、洵に曉天の星も嘗ならず。此程物故せられたる箕作博士の『フランス大革命史』は既刊の前篇のみにても、六六四頁の大冊子なれば、單に量の上より見ても、我が史學界にレコルドをつくるものと云ふを得べし。

箕作博士の佛國革命を研究せらるゝこと極めて久しく、前後二回の西遊を経て、東京帝國大學に同革命史を講せらるゝこと約二十年に亘りしと云ふ。以て其の造詣の如何に深奥なるかを

察す可し。博士が佛國革命の研究に如何に多大の興味を有し、又如何に佛國革命に關する知識に對して自信ありしかは、『フランス大革命史』序文に「これら諸先生（ハイデルベルヒ大學のエルドマンズデルフル教授、ベルリン大學のレンツ教授、パリ大學のオーラル先生）の大革命に關する意見はそれ〴〵獨創に富みて啓發せらるゝ所少なからざりしが、また悉く服する能はざる所あり、一方の實物研究と相俟ちて漸く余一家の革命史觀を成すに至れり」と述べられしに徴して、之を察知するを得べし。佛國革命てふ最も複雑混亂したる時代、驚天動地の大ドラマを演出して後世に影響を與ることの絶大な事實の研究は言語、傳説、習慣、宗教等を用ふる國人に取つても極めて困難なる事業なるにも拘はらず、故博士が人情風俗相距れる異邦人を以てして、かく迄に自信ある大述作を提供

せられたるは、誠に我が學界の名譽たるのみならず、又實に世界の史學研究に貢獻する所少なしとす可からず。史學者としての天才を異邦人たる博士に期待するは或は望獨の事に屬す可けむも、吾人が故博士に敬服するは、研究の爲には如何なる努力をも惜まざる學者的態度の眞率なる點にあり。『西洋史講話』に於て、若くは時々發表せられたる史論に於て見る博士の此の眞率なる研究的態度は、フランス大革命史に於て最も多く發揮せられたるを見る可し。而して其の革命の原因を説き、革命の事件を叙するに方つて、邦人に了解し難き制度文物等の説明に最も力を籠めたるは殊に喜ぶ可し。文章亦雄渾にして瑰麗、此世界歴史中の最大事件の記述に相應はしきを見る。要するに、本書が我が史學界近時の一大述作なることは、何人も異論なき所ならむ。唯だフランス二世をレオポルド二世

の弟としたるが如き、レオポルド二世をレオポルド五世としたるが如き、一二のケアレヌミステーキ若くはミスプリントは白璧の微瑕にだも若かざれど、是等は須らく改版の際校訂を要す可し。(占部百太郎)。

堀江博士著 労働問題の現在及將來

大體閣發行四六版
三三六頁定價金貳圓五拾錢

堀江博士は博士自らの語るが如く、從來労働問題解決法として、職工組合主義を提唱し來りたるのみならず、近き將來に於ても亦我労働問題を解決する上に、最も適應したる主義なりとして之を鼓吹せんとしつゝあるものなり。(本書五八頁)。此點に於て博士の抱懐する意見は多年一定して動かす、所謂「勞資協調」の如き茫漠たる名稱の下に主張せらるゝ妥協的政策の如きは

堀江博士は博士自らの語るが如く、從來労働問題解決法として、職工組合主義を提唱し來りたるのみならず、近き將來に於ても亦我労働問題を解決する上に、最も適應したる主義なりとして之を鼓吹せんとしつゝあるものなり。(本書五八頁)。此點に於て博士の抱懐する意見は多年一定して動かす、所謂「勞資協調」の如き茫漠たる名稱の下に主張せらるゝ妥協的政策の如きは